

渋川地区

正蓮寺周辺の昔をしのぶ風景

「渋川城の堀跡には今も静かに湧き水が流れています。」



鍵形の土塁と堀、堀切内の井戸も残っている(私有地のため無断での立ち入りはできません)

「ぼたん寺」として親しまれている正蓮寺の周辺には、渋川(寄居)城の堀の跡など、当時をしのぶ風景が残されています。渋川城は、子持地区にある白井城(現在は城址跡が残るのみ)の出城です。出城とは、本城のほかに国境などの要害の地に築いた城のことです。別名寄居城ともいいます。そのため、この地域は寄居町という町名が付けられています。

正蓮寺とその西側に隣接する地が本郭で、元龜三年(1572年)、真田幸隆らの武田勢が白井を攻略した際に築城したといわれています。寺が建っている場所は高台で、周辺に建物がなかった昔は白井城がよく見えたのでしようね。何かあったときには、狼煙を上げて白井城に急を伝えたいのではないかと考えられます。

周辺の、かつての堀跡には今も湧き水が小川となって流れています。春と夏の2回、地域の住民が清掃活動を行っており、水がきれいなため、今でも沢ガニが生息しています。正蓮寺の西隣

の民家の前には、鍵形の土塁と堀、堀切内の井戸も残っています。この水を利用して、昔はここに紺屋があり、染物を洗った水槽跡もあります。



渋川旅先案内人 新井光雄さん



今でも沢ガニが生息している堀の跡

正蓮寺には、50種類、1、500株のボタンが植えられているボタン園があり、花が咲く5月の連休の頃には、多くの見学者が訪れます。

正蓮寺周辺から「絵馬の寺」として知られる遍照寺に立ち寄り、アジサイで有名な真光寺まで歩く道は、まちなかにおいて自然と歴史を感じられるお勧めのコースです。

伊香保地区

源泉が湧き出す2号源泉

「ガラス越しに源泉が吹き出す様子を見ることがができます。」



ガラスのドームに覆われた2号源泉

伊香保温泉には、8カ所の源泉があり、毎分約4、500リットルの源泉が湧き出しています。石段街を上がった先、伊香保温泉の一番奥にある2号源泉では、ドーム型の透明なガラス越しに源泉が吹き出す様子を見ることがができます。湧き出したばかりの源泉は透明ですが、鉄分が多く含まれているため、空気に触れるとだんだん茶褐色に変化します。そのため源泉近くを流れる湯川は、川底が赤く染まっているんですよ。

源泉を集めて石段街に流し、各旅館に引湯する小間口制度は伊香保温泉独自のものです。今から350年前、第3代將軍徳川家光の時代に設置されました。源泉から伊香保神社の下まで木製の導管で温泉を引き、そこからそれぞれの温泉所有権者である大屋に配分されました。当時は大屋があり十二支で表されていました。石段には、当時の大屋の屋敷跡に十二支のプレートが埋め込まれています。小間口は、今でも温泉の取入



伊香保温泉観光ガイドの会(遊友) 富永精司さん

口として利用されています。石段街には小間口観覧所が4カ所あり、温泉が流れる様子を見ることがができます。



当時の大屋の屋敷跡に埋め込まれているプレート

また、伊香保温泉の各旅館では、江戸時代から大正時代まで料理を作っていました。それは、石段街なのでひとたび火事を出すと消火ができず、大変なことになったからです。石段街の下のほうに仕出し屋があったので、そこから料理を取っていました。今のように各旅館で料理を作るようになったのは、大正時代の末くらいからだったようです。そんな歴史を思い浮かべながら石段街を歩いて、新たな発見を楽しんでください。

温泉の歴史を感じる散策コース

- 2号源泉では、源泉がこんこんと吹き出す様子が見られます。
- 伊香保露天風呂には、2号源泉で吹き出している温泉が直接注ぎ込まれています。
- 紅葉の名所の河鹿橋。朱塗りの太鼓橋が紅葉シーズンにはライトアップされ、幻想的な光景が楽しめます。
- 伊香保のシンボル石段街と、勢いよく流れる源泉が見える小間口観覧所。

花と歴史を訪ねる散策コース

- 渋川(寄居)城の堀の跡。沢ガニも生息しています。
- 正蓮寺は、通称「ぼたん寺」として親しまれています。
- 遍照寺は、受験シーズンになると多くの合格祈願の絵馬が奉納され、「絵馬の寺」と呼ばれています。
- 真光寺は、平安時代に開山された名刹で「あじさい寺」としても親しまれています。

小野上地区

温泉施設の「SUNおのがみ」「花山」「きくむら」「古城台」「さちのゆ」が提案

「野仏・棚田・農園めぐりの散策コースをつくりました。」



どこか懐かしい棚田の風景



散策コースをつくった皆さん
右から、今井陽一さん・野村紀子さん
新井春代さん・小林三郎さん

このエリアの魅力は、温泉と美しい山里風景と素朴な野仏そしてマイタケや梅などの地場産の農産物です。美人の湯で知られる小野上温泉には、気軽に立ち寄れる日帰り温泉センターと4軒の温泉宿があります。県内では珍しい棚田のある山里風景や、昔からある野仏の姿。そんな小野上の魅力をたっぷり味わってからおうち、私たちが野仏・棚田・農園めぐりの散策コースをつくりました。

JR小野上温泉駅をスタートして、国道353号をわたり急な坂道が上がると、そこからは野仏の里。道端の7カ所に神様や仏様がたたずんでいます。こうした野仏の多くは江戸時代に



ほのほのとした野仏の姿

作られ、地域の守り神として村人や旅人を見守ってきました。さらに歩いていくと、棚田の里が広がります。小野上地区は平野部が少ない山間地なので、小さな棚田がつけられました。初夏から夏にはみずみずしい青穂、秋には黄金色の稲穂の美しい風景が広がります。そこでの田植え体験や収穫体験も楽しいと思いますよ。

途中にある農園では、キノコ狩りやリンゴ狩りを楽しんだり、そこで採れる農産物でつくった郷土料理を味わってもらうプランも計画しています。

歩いた後は、温泉でゆっくり汗を流してください。柔らかな感触の温泉は、肌がすべすべになる、美人の湯。塩分を含んでいる小野上の湯は、体の芯から温まります。小野上温泉センター「さちのゆ」には、広い内風呂と、自然石を配した露天風呂、高温サウナがあります。SUNおのがみ、花山、きくむら、古城台の温泉宿では地産地消のヘルシーな料理と美人の湯が楽しめます。

素朴な田園風景を感じる散策コース

- 1 野仏めぐり。道沿いに7体の野仏が点在しています。
- 2 棚田の里には、小さな水田が段状に広がる風景が見られます。
- 3 2つの農園で、郷土の味を楽しんでください。
- 4 リニューアルした小野上温泉センター「さちのゆ」で、ゆっくり温泉に浸ってください。



農園で一休み

小野上温泉センター「さちのゆ」



子持地区

白井城の城下町として栄えた白井宿

「八重ざくららの咲く季節がおすすめです。」



八重ざくらが咲きほこる春の白井宿

白井宿は、15世紀中頃に築かれた白井城の城下町でした。その後は市場町として栄え、「六斎市」と呼ばれる市も開かれていました。江戸時代には、南北900mを超える町割りが続き、宿屋や店が軒を連ねていました。現在、白井堰といわれる水路、つるべ井戸、鐘楼などが整備され、当時の町並みを今に残しています。このようなまち並みが残るのは県内ではこたけで、まるで江戸時代にタイムスリップしたようだといわれます。

ここは利根川に近いのに、地質学上水が出ない土地で、昔から水には苦労したようです。江戸時代には、3つの井戸が掘られました。その後、明治から昭和にかけて、地域の人たちがお金を積み立てて5つの井戸を掘りました。現在も8つのつるべ井戸が残り、その中のいくつかの井戸の底には地下水が溜まっています。

白井宿から20分ほど歩いた高台には、白井城址があります。15世紀中頃に、関東管領山上



白井宿観交(光)案内人の会
金井好彌さん

杉家の重臣であった長尾景仲によつて築かれたといわれる城で、景仲は、月江正文禪師を開山とする雙林寺(曹洞宗)や「白井の聖堂」と呼ばれる学問所を開いたことでも知られています。その後、次々と城主が変わり、寛永元年(1624年)に廃城となりました。現在は、本丸周辺の土塁や堀、虎口の石垣などが残っています。

白井宿では、八重桜が咲く4月下旬に「白井宿八重ざくら祭り」が開催され、戦国武将などの衣装を身にまとった武者行列が行われます。近くにある地元野菜や特産物が並ぶ「道の駅こもち」にもぜひ寄ってください。



白井宿八重ざくら祭りの武者行列

往年の面影をしのぶ散策コース

- 1 豊嶋屋や薬種屋など、江戸時代の土蔵造りの家並みが残っています。
- 2 井戸が江戸時代のまち並みを感じさせます。
- 3 白井城址には、本丸周辺の土塁や堀、虎口の石垣などが残っています。
- 4 道の駅こもちでは、地元産の野菜や特産物が売られています。



赤城地区

曹洞宗の古刹・福増寺

「しだれ桜がライトアップされる春、カエデやイチヨウが紅葉する秋がお勧め。」



ライトアップされたしだれ桜

敷島駅近くにある福増寺には多くの見所があり、ぜひ一度訪れてほしいお寺です。亀甲模様の石が敷き詰められた参道から山門をくぐると、高遠石工が彫った石仏像、数珠つなぎのカヤ、百所観音などが次々と現れます。



立派な山門

本堂の前には、有名な日本庭園の庭師・北山安夫氏が作庭した「埋優庭」が広がっています。赤城山にかかる明月を模した円相石をはじめ多くの鑑賞ポイントがあり、特に鐘撞き堂としたれ桜がライトアップされる春に

は、多くの見物客でにぎわいます。

東国花の寺100選にも選ばれていて、ライトアップされるしだれ桜が有名ですが、カエデやイチヨウが紅葉する秋の風景もお勧めです。

本堂北には、子持山を借景にした枯山水の石庭「非思量庭」があります。説明板に「えもいわれぬ□□□のお庭 えもいわれぬ…何かが漂っています 各自の感じる言葉を入れて鑑賞していただくお庭です」とあるように、静けさに包まれた思索の庭です。赤城地区は文化財の宝庫で、4カ所の国指定、6カ所の県指定、15カ所の市指定の文化財や天然記念物があり、すべて廻れば2、3日はかかるほどです。散策コースとしてお勧めしたいのは、福増寺から、極彩色の彫刻がある赤城神社、国指定天然記念物キンメイチクをはじめ、多くの文化財がある桜森の八幡宮です。時間があれば赤城歴史資料館も訪れ、遺跡からの出土物や考古・民俗展示物を見学してください。



赤城ふるさとガイドの会 角田尚士さん

北橋地区

江戸時代の八崎城をしのぶ道

「小字に当時の屋号などが残っていて、当時をしのぶことが出来ます。」



八幡宮からは榛名山や渋川の市街地が見渡せる



地区内では最も古い六地藏

近くには、千手観世音が祀られている東円山観音堂、間引絵の天井絵がある角谷薬師堂などもあり、1〜2時間で散策できるお勧めコースです。

分郷八崎には、沼田街道と利根川の間を北上し、前橋から沼田へ抜ける沼田街道西通りが通っていました。八崎城の城下町として発展した街道沿いには、八崎宿が置かれていました。八崎宿は、戦国時代には城下町として、江戸時代には宿場として栄えました。大名など身分の高い人ではなく、飛脚や旅人など比較的身分の低い人が宿泊したようです。現在は埋められています。道の真ん中には堀が流れ、商店や宿屋などが並んでいました。今でも小字に当時の屋号などが残っていて、当時をしのぶことができます。

の石に六体の地藏を刻んだ六地藏と呼ばれる石仏があります。像は浮き彫りで、後背の円や錫杖、宝珠がわかります。背面に「勢多郡祥志庄八崎村■天文十三年(1544年)」とあり、地区内では最も古い貴重なものです。八崎宿の東側の小高い丘の上には、八崎城を守るように八幡宮が建っています。第15代応神天皇を祀って創建されたといわれ、武運長久の神として崇敬されてきました。現在も無病息災、五穀豊穡、交通安全などを祈願する地元の人々から信仰されています。ここからは、利根川の向こうに榛名山などの山々や、渋川の市街地が広がる風景が見渡せます。桜の名所としても親しまれています。



北たちばなふるさとガイドの会 須田幸子さん

八崎城の面影を辿る散策コース

- ① 榛名山を望むように建つ、戦いの神様が祀られている八幡宮。
- ② 東円山観音堂には、行基僧正作と伝わる八崎千手観世音が祀られています。
- ③ 八崎宿の面影を探しながら歩くのも楽しいです。
- ④ 雙玄寺には、六体の地藏を刻んだ六地藏があります。
- ⑤ 角谷薬師堂には、全国的にも珍しい間引絵の天井絵があります。

文化財を巡る散策コース

- ① 見所いっぱいの福増寺。
- ② 赤城神社の本殿には、江戸後期の彫刻師である関口文治郎の彫刻が施されています。
- ③ 桜森の八幡宮には、濃い紅色と枝垂れしない姿が貴重なベニタチヒガンザクラと、黄金色の縦縞が美しいキンメイチク、津久田の人形舞台があります。